

SAGA 2024 国スポ
全障スポ

結果報告

本県勢が大活躍！

少年男子 準優勝

成年男子 3位入賞





「SAGA 2024 国スポ」バスケットボール競技が、10月10日（木）～14日（月）の日程で、佐賀県唐津市にて開催されました。

本県チームは、8月の関東ブロック予選を勝ち抜いた3種別（成年男子、少年男子、少年女子）が出場。

3連覇に挑戦した少年男子は、3年連続の決勝進出も福岡に敗れ惜しくも準優勝。

成年男子は、準決勝で強豪秋田と対戦。大接戦の末惜敗しましたが、堂々の3位入賞となりました。

少年女子も初戦を突破するなど、出場全種別がそれぞれ全国の舞台で活躍しました。

この大会に参加した選手、スタッフの皆さんは、自チームの活動やプライベートの時間を削って、茨城県選手団として参加してくださいました。心から感謝の意を表します。

<成年男子>

初戦、愛知とのゲームは、一時リードを奪われる展開も、要所で3P・フリースローをきっちり決めきり快勝。再延長までもつれた山口との準々決勝を制し、準決勝に進出した本県チームは、昨年まで国体5連覇中の秋田と対戦。10点ビハインドで迎えた3Q、ディフェンスで相手のリズムを崩すことに成功し、1点差まで詰め寄ります。4Qは、引き離しにかかる秋田に対して必死で食い下がり、最終盤まで2ポゼッション以内の接戦を演じましたが、最後は逃げ切れ、ゲームセットとなりました。破れはしましたが、堂々の3位入賞。「子供たちに見てもらいたい日本一頑張る大人たち」である茨城県成年男子チームが、遠く九州の地で存在感を示しました。



<少年男子>

3連覇に挑んだ少年男子。初戦の兵庫とのゲームは、リードしたものの3Qに追い上げられ、1点差で迎えた4Qに突き放しての勝利。準々決勝は、テクニシャン揃いの沖縄チームの巧みな攻めに苦しみながらも、なんとか2点という僅差で勝利をもぎ取ります。京都との準決勝は、1Qに奪われたリードを追う展開。7点ビハインドで迎えた4Q、勝負所でこ一番の集中力を見せて相手を圧倒。ベンチメンバーの活躍もあり、怒濤の27得点で一気に逆転し、3連覇に王手をかけました。決勝の相手は、今年も「第一十大濠6」というチーム構成の福岡。地元九州の強豪チームとあって、完全アウェイの雰囲気の中、1Q、個々の能力で圧倒してくる福岡に対し、細かなことを徹底し、体を張ったディフェンスで食らいつく本県チームが6点のリード(17-11)を奪い、館内をざわつかせます。2Q、徐々にリバウンドのほころびを突かれる始めると点差が詰まり、半ば過ぎについて逆転を許すも、ディフェンス、リバウンド、ルーズボールなどを泥臭く頑張り、なんとか5点差(29-34)にとどめて後半につなぎます。3Q、出だしから福岡の能力が炸裂しリードを広げられますが、ディフェンスで中盤から約5分間相手を2得点に抑える頑張りを見せ、オフェンスはインサイドを中心にドライブを効果的に織り交ぜて反撃。5点差(49-54)に戻して最終4Qを迎えます。4Q、プレッシャーを強める福岡のディフェンスを攻めあぐみ得点を伸ばせない本県チームに対し、ここが勝負所と一気の攻勢に出る福岡。力を振り絞り必死で守るものの、最後の最後にシュートの精度が更に一段上がった福岡が得点を重ね、最終的には60-83で試合終了となりました。福岡の強さを知る九州の観客だからこそ分かる本県チームの粘り、頑なりに、会場からは賞賛の拍手が送られました。堂々の準優勝。本県少年男子チームは、今年も、間違いなく「日本一魂のこもったチーム」であり、その戦いぶりは開催地の皆さんに大きな感動を与えました。

本県選抜 準優勝

バスケット少年男子



バスケット少年男子決勝、茨城・福岡、第1クォーター、1点を差する本県選抜の選手(中央、土浦大高) ■鹿嶋市文化体育館

福岡に苦杯 3連覇逃す

3連覇を期しバスケット少年男子の選手たちは、本県選抜のメンバーとして、今年も「第一十大濠6」というチーム構成の福岡と対戦。初戦の兵庫とのゲームは、リードしたものの3Qに追い上げられ、1点差で迎えた4Qに突き放しての勝利。準々決勝は、テクニシャン揃いの沖縄チームの巧みな攻めに苦しみながらも、なんとか2点という僅差で勝利をもぎ取ります。京都との準決勝は、1Qに奪われたリードを追う展開。7点ビハインドで迎えた4Q、勝負所でこ一番の集中力を見せて相手を圧倒。ベンチメンバーの活躍もあり、怒濤の27得点で一気に逆転し、3連覇に王手をかけました。決勝の相手は、今年も「第一十大濠6」というチーム構成の福岡。地元九州の強豪チームとあって、完全アウェイの雰囲気の中、1Q、個々の能力で圧倒してくる福岡に対し、細かなことを徹底し、体を張ったディフェンスで食らいつく本県チームが6点のリード(17-11)を奪い、館内をざわつかせます。2Q、徐々にリバウンドのほころびを突かれる始めると点差が詰まり、半ば過ぎについて逆転を許すも、ディフェンス、リバウンド、ルーズボールなどを泥臭く頑張り、なんとか5点差(29-34)にとどめて後半につなぎます。3Q、出だしから福岡の能力が炸裂しリードを広げられますが、ディフェンスで中盤から約5分間相手を2得点に抑える頑張りを見せ、オフェンスはインサイドを中心にドライブを効果的に織り交ぜて反撃。5点差(49-54)に戻して最終4Qを迎えます。4Q、プレッシャーを強める福岡のディフェンスを攻めあぐみ得点を伸ばせない本県チームに対し、ここが勝負所と一気の攻勢に出る福岡。力を振り絞り必死で守るものの、最後の最後にシュートの精度が更に一段上がった福岡が得点を重ね、最終的には60-83で試合終了となりました。福岡の強さを知る九州の観客だからこそ分かる本県チームの粘り、頑なりに、会場からは賞賛の拍手が送られました。堂々の準優勝。本県少年男子チームは、今年も、間違いなく「日本一魂のこもったチーム」であり、その戦いぶりは開催地の皆さんに大きな感動を与えました。



バスケット少年男子 準優勝を果たした本県選抜



<少年女子>

3大会連続出場の少年女子。初戦は宮城県とのゲーム。1Qは硬さが見られたものの、徐々に動きが良くなり18-21。2Q、出だしから一気にディフェンスで仕掛けて相手のミス誘い、完全にリズムを崩した宮城を5得点に抑えリードを広げます。(43-26)後半は、メンバーの出し入れをしながら変化をつけることで相手を乗らせずにリードを保っての快勝(65-48)となりました。2回戦は開催県佐賀との対戦。前半は8点ビハインド(27-35)。3Qに、厳しいディフェンスで相手のミス誘うなど、一挙32得点で逆転に成功しましたが、4Q最終盤に追いつかれ、残り3秒で逆転を許しての惜敗(68-69)でした。上位進出はなりませんでした。が、「全員バスケット」、「多彩なディフェンス」を披露し、「らしさ」を示してくれました。

